

事業所名		ステラNEXT				支援プログラム（放課後等デイサービス）				作成日		令和7 年		1 月		31 日							
法人（事業所）理念		「よく動き、よく学び、よく遊び、よく休む」を基に、言葉で心【感情・意思】を表現し、自分のやりたい事【行動・動作】を考える【思考・自己選択】療育を目指す。5領域への着目、支援の繋がりを明確にしながら、常に支援の質の向上を目指し、個々・小集団に寄り添ったより良いサービス提供を実践していく																					
支援方針		「児童発達支援・放課後等デイサービス ステラ」と連動・連携し、更に切れ目のない支援体制と個々のステージに合わせた療育内容を展開する。様々な場面で差が出やすい小学校3年生以上を対象に、個人の生活力（基本的な日常生活動作、自己判断、責任感等）の向上、社会性（対人コミュニケーション、自己覚知、他者理解等）の獲得、情緒面のコントロール、必要な学習スキルの向上を目指し、日常生活や療育活動を通して、一段階のステップアップを療育の中で目指しサポートを行う																					
営業時間		9 時				00 分				18 時				00 分				まで		送迎実施の有無		あり	
		支 援 内 容																					
本人支援	健康・生活	個人の生活力の向上（基本的な日常生活動作、自己判断、責任感等）を目指し、健康状態の維持・改善、生活リズムや生活習慣の形成、基本的な生活スキルの獲得のサポートを行い、健康で安全な生活を送れるように支援する。日常生活における基本的な生活リズム、日常生活スキルが身につける事が出来る様、自宅での過ごし方を保護者と連携・共有し、日々の通所や活動を通して自分で出来る事（生活リズムを整える、身だしなみ、排泄練習、靴紐結び、調理実習、血洗い、洗濯のたたみ方、お箸・スプーン・フォークの持ち方、ハサミ等の刃物の使い方）を増やしてけるよう練習を行う。また、個々の特性へ配慮し、それぞれにあった伝え方や、視覚化を行う等、内容が理解を促し、工夫しながらサポートを行い、練習をしていく。その他、定期的にご家族から日常生活での困りごとや児童の様子等について、面談や電話・送迎時の引継ぎ・LINE等で相談事の共有を行い、日々の活動内容等に取り入れ、自分で出来る事を増やし、生活力の向上を目指したサポートを行う																					
	運動・感覚	活動を通して、粗大・微細運動等の様々な内容に取り組み、身体を動かす事の楽しさを体感する事を大切にしていく。日常生活に必要な動作の基本となる姿勢保持、上肢・下肢の運動、感覚と動作の協調運動、動作の改善及び習得、筋力の維持・強化を図る。また、保有する感覚（視覚、聴覚、触覚等）を十分に活用できるよう、感覚を刺激するような活動や遊びを通して支援する。運動や感覚遊びを通して感覚統合を図り、日常生活における運動作用や感覚刺激を上手にコントロールできる事を目指す。また、指先への感覚や視覚情報の習得を刺激する為、パソコンを使う活動にも取り組んでいる。楽しむことで動機付けを行い、パソコンの操作方法を学び、調べものを行う等、興味関心、空間認知、マウスやキーボードを打つ際の力加減等を学びます。また、インターネットを安全に正しく使うための知識や能力（ネットリテラシー）を養う機会を設けていく																					
	認知・行動	自身の今の情緒面・行動面を把握できるように、自身の気持ち・感情を知る事から行います。自身の気持ち・感情を把握する事が難しい場合は、イラストや絵カード等（視覚化）を使い、表現しやすい工夫や、スタッフによる代弁等を通して、感情の把握が出来る様に、練習を行う。自身の感情を把握出来た後に、まずは本人の気持ちを傾聴して聞き、気持ちに対してどうしたいのかを一緒に考えていく。気持ちを伝える事が難しい場合は、スタッフが代弁・確認をした上で、気持ちを言葉にする練習を行っていく。状況、気持ち・感情を理解、整理するサポートを行う事でその後の行動を変容できるよう支援する。気持ちの昂がり、不安定な面に対しては、本人の思いに寄り添いながら、クールダウンの方法等をしっかりと評価し、自信に繋げる、自己肯定感を高める練習を行う。自身の気持ちをコントロールする事が出来る様、本人にあった気持ちのコントロール方法を模索し、一緒に練習を繰り返していく。また、ご家族の方とも連携し、事業所で行った効果的な情緒面のコントロールのサポート等を助言・共有を行いながら、家庭と連携してサポートを行う。また、作業療法士による認知行動療法に付随する専門的支援を行う事で児童自身の認知・行動の変容を支援する																					
	言語コミュニケーション	遊びや集団活動を通して、遊びのルールや、遊んだ後の片付け、協調性、他者との関わりによるコミュニケーションスキルのレベルアップ（遊びを誘うなどの言葉かけの練習）や思いやり、自主性、自己判断を遊びを通して学んでいます。集団を作って生活することや、他者との関係や、責任感、社会的ルール・ルール、モラル等を日々の活動を通して学んで行き、社会に出ても困る事が無いよう学習期からのコミュニケーション能力、社会性獲得に向けたサポートを行っています。また、作業療法士による専門的支援をとおる事で、コミュニケーション場面における他者との相互利用を介して相手の意図を理解する事や自身の考えを伝える等、受容言語と表出言語の獲得を図った支援を行う。学習に必要な読み書き能力の向上を個々の発達特性に於いて支援する。わからない点は、自らスタッフへ「わからない事を伝えよう」自己発信が出来る様に練習を行っている。学習中はスタッフがサポートにつきながらも、まずは自身で考えて解く事が出来るよう、教科書・辞典の使い方、探してみる等のサポートを助言と共に一緒にに行っている。学習では、個々の差が出やすい為、それぞれの力に合わせたスモールステップを準備し、達成・出来ている事をしっかりと評価し、自信に繋げる、自己肯定感を高めしていく関わりも行っていく。得意な分野では、更なるレベルアップを目指し、得意な事を伸ばす事が出来る様関っていく。学校とも連携を行い、学校の授業についていく事が出来る様、それぞれの課題を整理し、それぞれの内容に合わせて聞く力、文章を読む力、読解する力、見る力、考える力、書く力等にも取り組み、それぞれの課題克服や成長を高める練習にも取り組む。																					
	人間関係社会性	社会生活上における人との関係を意識し、身近な人と親密で信頼できる関係を築き、その信頼関係を基盤として、周囲の人と安定した関係を形成する為の支援を日々の通所や活動の中でサポートする。一人遊びから協同遊び、仲間作りと集団への参加を促していく。周囲に他児がいても無関心な一人遊びの状態から、他の共有を行う並行遊び、スタッフが介入して行う連合的かつ協調を意識した遊び、グループの中で個々の役割分担やルールを守って遊ぶ協同遊びを通して、個人⇒グループ⇒集団への関わりをステップアップしていく。それぞれが集団を意識して、学校や社会と関われるよう徐々に社会性の成長をサポートする。集団へ参加していくには、自己の理解も必要となる為、スタッフを介在して、自身でできること・できないこと・手伝ってほしいこと等の発信を促す事で、自己の言動の特徴を理解すると共に、気持ちや情動の調整、自己覚知・自己理解・他者理解ができるようサポートを行う																					
家族支援		児童（及びきょうだい児）の成長や日常生活、学校での過ごし方、体調に関すること、家庭での様子等、その他保護者が気になること等を保護者と連携し適宜共有し、悩みごとに関しては傾聴、受容を行う。児童（及びきょうだい児）、保護者が安心して療育や日常生活、社会生活が営めるよう環境作りを図る。保護者と情報共有をする事で家庭、学校等へ療育機関でのサポートに統一性を保ち、必要に応じた助言・提案等の家族支援を行っている								移行支援													
地域支援・地域連携		保護者、関係者（教育機関等、相談支援事業所、併用事業所等）で得られた情報を共有し、児童それぞれを取り巻いている環境を元に包括的な支援体制の構築を図る。モニタリングを中心とした連絡会議を定期的に開催し、相互で情報収集を行い、家庭・事業所・教育機関等で共通した対応が必要な場合や各機関の強みを活かした対応が必要な場合等、児童の日常生活や社会生活におけるスキル向上に向けた対応を協議していく。また、自立支援協議会が運営する勉強会や自治会における地域交流に積極的に参加する事で新たな社会資源の発掘・開発を行う								職員の質の向上													
主な行事等		・誕生日会（該当者がいない月はお楽しみ会） ・季節の行事 ☆1月：正月遊び ☆2月：バレンタインおやつ作り ☆3月：ひな祭り、ホワイトデーおやつ作り ☆5月：鯉のぼり制作、母の日制作 ☆6月：避難訓練（地震・津波）父の日制作、平和学習 ☆7月：七夕制作 ☆8月：夏祭り、スイカ割、水遊び、親子BBQ ☆9月：敬老の日制作 ☆10月：ハロウィンパーティー ☆11月：秋探し、秋のおやつ作り ☆12月：避難訓練（火災）、クリスマスパーティー） ・長期休暇（春休み・夏休み）による一日外出イベント（海水浴、施設見学、遠足等）																					